

中央圏域 地域福祉ワークショップ

第1回 2018年12月19日(26名参加)・第2回 2019年2月22日(23名参加)

※(個):自分・家族が (地):隣近所~校区で (連):連携・協働で

	【 地域の理想像 】	【 現状 】		【 理想実現のためにできること 】
	「こんな取組があったらいいな」 「5年後・10年後こんな地域だったらいいな」	「困ったこと」「困っていること」	「今あるもの」「今やっていること」 ※	「いいな」のために「できること」 ※
人	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつが飛び交う、声を掛け合う ○笑顔があふれる、全員が顔見知りである ○お互いに支え合う人間関係がある ○孤立死がない ○困ったときに「助けて」と言える関係 ○「支える」「支えられる」の役割が固定されていない ○自治会役員等の世代交代が次々と得られる ○地域の様々な知識・技術を持った人が地域活動に参加できる ○みんなが地域活動に参加する ○困ったときに支援を頼める人がいる ○ニーズとボランティアをつなぐ人がいる ○ポイント銀行のような支え合いシステムがある ○有償の家事支援の仕組みがある 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域から孤立している ○近所付き合いを拒む ○話し相手がいない ○相談相手がいない ○近所には迷惑をかけられない ○助けを求めることができない ○見守ってくれる人がない ○「お助けグループ」がない 	<ul style="list-style-type: none"> (個) あいさつ、声かけ (個) 知らないひとでもあいさつする (個) 地域行事への積極的参加 (地) 登下校時の見守り (地) 校区見守りネットワーク (地) 青パト防犯パトロール (地) 見守り訪問活動 (個) ゴミ出しの手伝い 	<ul style="list-style-type: none"> (地) あいさつ運動 (個) 地域行事への積極的参加 (個) 積極的に相談に応じる (個) まずは自分が地域の役を引き受ける (個) 「おかしいな」と思ったら声をかける (個) 日ごろからの「気配り」「目配り」「心配り」 (地) 訪問サークルをつくる (地) 地域行事への参加呼びかけ (個) 支え合い活動、ふれあいの会活動への協力 (地) 子育て世代を地域活動に勧誘
場	<ul style="list-style-type: none"> ○多世代が集う交流の場がある ○全自治会にふれあいきいきサロンがある ○認知症でも障害があっても、自然に交流できる場がある ○地域の問題を気軽に話合う場がある ○病院や学校・児童と親が協働で取り組むイベントがある 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症や障害の当事者との交流がない ○障害者、認知症高齢者、ひきこもりの人の居場所がない ○身近な相談場所がない ○移動や買い物の不安 	<ul style="list-style-type: none"> (地) サロンの開催 (地) 食事会の開催 (地) 各種地域行事の開催 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 自宅の庭を地域に開放する (地) 空き家を学生寮やサロンに活用する (地) 耕作放棄地等を家庭菜園にする (地) 児童と高齢者の交流促進 (地) 誰でも参加できる楽しいイベントの企画 (地) 誰もが参加しやすいイベントの工夫
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○地縁組織の活動が地域全体に周知される ○困り事の把握ができる ○認知症・障害等の情報が地域で把握できる ○支援者が主体的に活動し情報発信できる ○専門職との情報共有ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○安否確認し合う手立てがない ○個人の情報把握ができていない ○「個人情報保護」の弊害 ○「SNS」普及の弊害 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 自治会加入者の家庭状況把握 	<ul style="list-style-type: none"> (連) 支え合い活動の状況について情報交換する
理解	<ul style="list-style-type: none"> ○障害の有無に関係なく、安心して生活できる ○子ども全員が子ども会に加入する 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症や障害を正しく理解できていない ○家族が認知症や障害を隠す ○地域行事に参加しづらい 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 認知症学習会 (連) 認知症サポーター養成講座 (地) 子ども民生委員 (連) 地域いいねMAP 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 小中学校の地域参観
災害	<ul style="list-style-type: none"> ○自然災害に強い地域をつくる ○防災意識が高い ○災害時シミュレーションができています 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時の支援体制が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 防災訓練 (個・地) 災害時の声のかけあい 	<ul style="list-style-type: none"> (個・地) 災害時要援護者への支援 (連) 災害時の支援等について情報交換する
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○コンパクトシティ ○地域が良くなっていく評価尺度を設定されている ○子どもたちの成長が見える ○子ども同士も親同士も仲がいい 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育が不十分 ○学力の低下 ○親子の会話がでない ○家庭内でも孤独 ○趣味がない 		<ul style="list-style-type: none"> (地) 地域が良くなっていく評価尺度を設定する (連) 企業との連携

(注) 災害時要援護者名簿とは…地域での声かけや避難情報の伝達、安否確認に役立ててもらうもの。平成31年2月8日より『避難行動要支援者名簿』に名称が変更となった。

東圏域 地域福祉ワークショップ

第1回 2019年1月23日(28名参加)・第2回 2019年3月22日(24名参加)

※(個):自分・家族が (地):隣近所~校区で (連):連携・協働で

	【 地域の理想像 】	【 現状 】		【 理想実現のためにできること 】
	「こんな取組があったらいいな」 「5年後・10年後こんな地域だったらいいな」	「困ったこと」「困っていること」	「今あるもの」「今やっていること」 ※	「いいな」のために「できること」 ※
人	<ul style="list-style-type: none"> ○みんな仲良く笑顔があふれる関係性がある ○誰もがあいさつし、声を掛け合う ○電話相談ができる ○地域の見守り体制が構築できている ○高齢者、障害者、子ども、若者みんなが活躍できる 	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時、子どもを預ける人がいない ○地域との関わりが少ない ○家族が地域との関わりを拒否する ○同じ境遇・同じ悩みで話せる相手がない ○「助けて」と言えない ○コミュニケーション不足 ○自治会未加入者の問題 ○自治会役員の決め方の問題 ○活動の担い手・地域の「見守りの目」が不足 ○見守り体制・日常生活の支援体制が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 隣近所や子どもへの声掛け・あいさつ (個) あいさつを続けて相談しやすい関係づくり (個) 資源ごみ回収時の会話や相談 (地) 自治会役員の輪番制、幅広く担う (地) 自治会役員になることのメリットを伝える (個) 日頃から隣近所の動きを気にかけている (地) 青パトでの巡回活動 (地) アザレアや歳末カレンダーの配布 (個) サロンで活用できるレクリエーションを学んでいる (個) 買い物送迎の支援(自分のついで) 	<ul style="list-style-type: none"> (個) あいさつと声かけは基本、大人が見本を見せる (個) 積極的に声を掛け合い、話し合う (個) 家庭内で話し合う機会を設ける (個) 現在の活動を続ける(見守り活動、介護予防、自治会活動など) (地) 防犯パトロール・子どもの登下校見守りの継続実施 (個) 自分のついでに買い物等の移動支援
場	<ul style="list-style-type: none"> ○「サロン」が充実している ○小地域ごとに世代を問わず気軽に集える場所がある ○色々な場で介護予防のための教室が開催されている ○同じ趣味を持つ人たちが集まれる場所がある ○子どもが活躍できるイベントがある ○商店が充実している ○歩いて行ける場所で買い物できる ○訪問販売や移動販売が充実している ○「駄菓子屋」や「本屋」がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○隣近所の交流の場がない 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 知り合いと楽しむ家庭菜園 (個) 市主催の体操教室に参加 (地) 集会所でのサロン、校区の食事会 (地) たのし〇カフェ (連) サロン等で「認知症講座」の開催 (地) 自治会のお祭り行事、隣組単位の懇親会 (地) 子ども会のラジオ体操 	<ul style="list-style-type: none"> (地) サロン活動や食事会の継続実施 (地) 世代を問わず、誰もが集まれる場所をつくる (個) 地域行事へ積極的に参加し、周りも誘う (地) 地域行事の周知・広報 (地) 祭り行事や各種イベントを継続する (連) 施設と地域の行事を協働で実施する (個) 積極的に地元の商店街で買い物する
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の役員のみでなく、住民みんなで適切な情報共有ができる ○自治会ごとの課題や困りごとが共有できる 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報保護を「命」よりも優先する事例 ○個人情報の取扱い(プライバシーへの配慮の程度)が分からない ○緊急連絡先が把握できていない ○隣人の世帯状況把握ができていない ○SOSをキャッチできない ○専門職だけが情報を把握(地域は知らない) ○行政や施設等との連携不足 ○活用できる地域資源が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 新規転入者を回覧板で周知 (地) 民生委員との連携、情報共有 (連) 施設利用者の情報収集 (地) 青少協と民児協の情報共有 (地) 空き家に関する情報共有 (個) 防災メール「まもるくん」への登録 (個) 社会資源の把握に努め、必要に応じてつなぐ (地) 子どもの問題は主任児童委員につなぐ (個) SOSをキャッチできたら相談機関につなぐ (連) 老老介護の世帯を地域包括支援センターにつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 家族の連絡先を近隣に伝えておく (個) SNSを活用し、魅力を発信
理解	<ul style="list-style-type: none"> ○誰も排除しない ○障害があってもなくても暮らしやすい ○来る者は拒まず、去る者は追う地域 ○住民みんなが地元へ愛着をもつ ○校区の伝統を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○困りごとを抱えている人にどう支援すればいいか分からない ○認知症や障害、引きこもり、虐待等について理解が不足している ○困っている人だけ、「仕方のない人だから、放っておこう」と考えてしまう ○自治会の重要性を理解していない 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 認知症サポーターになった (連) 小学校で「認知症サポーター養成講座」 	<ul style="list-style-type: none"> (個) ほどよい「おせっかい」の気持ちを持つ (地) 伝統行事を大事にし、地域への愛着を醸成する
災害		<ul style="list-style-type: none"> ○災害時の互助・共助について仕組みができていない ○災害時要援護者の支援者や支援方法が決まっていない ○災害時要援護者名簿の個人情報の取扱い方 ○災害時要援護者名簿への登録が不十分 ○災害時の地域と施設等との連携が不十分 ○災害時、空き家倒壊の危険 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 災害時要援護者名簿登録の推進 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○だれもが元気で長生きできる ○子どもの笑い声があふれる ○地域の投書箱がある(自分の意見が言える仕組み) ○「空き家」の活用ができる ○特別養護老人ホームなどの施設が充実している 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人親家庭の子育ての困難性(経済的困難含む) ○核家族化の弊害(世帯内の支え合いが難しい) ○不登校の問題 ○自治会加入の強制力の無さ ○制度(サービス)に依存しすぎている ○住み慣れた地域での生活の限界(施設入所の必要性) ○買い物難民や通院難民が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 軽い運動(ストレッチ、ウォーキング) (個) 個別支援する中で、問題点や持っている力を明確化するよう努める (個) 共同募金の寄付つき商品の販売 	<ul style="list-style-type: none"> (連) 企業や様々な団体と協力する体制を構築する (連) 地域福祉ワークショップの定期的な開催 (連) 買い物難民・通院難民の課題を地域全体で考える

西圏域 地域福祉ワークショップ

第1回 2019年1月24日(26名参加)・第2回 2019年2月20日(24名参加)

※(個):自分・家族が (地):隣近所~校区で (連):連携・協働で

	【 地域の理想像 】	【 現状 】		【 理想実現のためにできること 】
	「こんな取組があったらいいな」 「5年後・10年後こんな地域だったらいいな」	「困ったこと」「困っていること」	「今あるもの」「今やっていること」 ※	「いいな」のために「できること」 ※
人	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のみんなが顔見知りである ○あいさつと笑顔が絶えない ○困ったときに相談できる人がいる ○気軽に相談でき、「助けて」と言える関係がある ○地域の役員の人材不足が解消されている ○地域住民がいきいきと活躍し、活動の担い手がたくさんいる ○「小地域ネットワーク活動」が充実 ○安否確認の仕組みが確立している ○ボランティア活動を有償で実施し、地域通貨で還元する 校区独自のワンコインサービスがある ○中高生がボランティアに参加している ○定年後も、経験・趣味・特技を活かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との関わりを拒否する ○関係づくりには時間がかかる ○相談相手・話し相手がいない ○同じ境遇・共通の悩みで話せる相手がいない ○悩みを吐き出せない ○本当に困っている人は相談すらできない ○役のなり手がいない ○自治会未加入者の問題 ○見守り訪問の拒否 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 機会を捉えて積極的にあいさつし、声をかける (地) 自治会長とのコミュニケーション (地) 消防団員とのコミュニケーション (個) 困っている人の相談に乗る (個) 仲間同士で悩みごとを話し合う (個) 地域の役を引き受ける (地) 転居者への声掛け・自治会への勧誘 (個) 野菜のおすそ分け (地) 見守り訪問活動、登下校の見守り、安全パトロール (地) ふれあいの会や隣組の活動 (地) 回覧板は顔を見て手渡しする(安否確認) (地) 清掃作業、草刈り、クレーク掃除 (個) ボランティア活動に参加 (地) 自治会活動への参加呼びかけ (連) 独居高齢者の傾聴ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 日ごろから隣近所、子どもや高齢者に声を掛ける (個) 笑顔であいさつする、子どもたちにあいさつを教える (地) 向こう三軒両隣の付き合いを深め、互いによく出かけ、よく知り合う (個) 行事等に積極的に参加し、たくさん知り合いをつくる (連) ボランティア団体や福祉施設が相談相手になる (個) 率先して地域の役を引き受ける (個) 自治会長の役割を分担して引き受ける (地) 分野別のボランティアを養成 (地) 有償ボランティアの登録制度を立ち上げる (個) 地域商店が活動に参加する
場	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが気軽に集まれる「サロン」がたくさんある ○井戸端会議のような自然な集まりがたくさんある ○子どもと高齢者等の多世代の交流が盛ん ○小地域単位のスポーツイベントがある ○「酒蔵まつり」のようなイベントが充実している ○「屋根や椅子があるバス停」がたくさんある ○校区の各団体が一体となったイベントの実施 ○小売店や移動販売が充実している 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼少期から地域と関わる場が少ない ○井戸端会議が減った ○子どもが自由に集える場がない ○ご近所同士で交流する場がない ○買い物支援の仕組みがない 	<ul style="list-style-type: none"> (地) サロン、食事会、グラウンドゴルフの開催 (地) 日常的な井戸端会議 (連) 介護予防講座 (地・連) 校区運動会の開催 (地) 自治会単位での行事開催 	<ul style="list-style-type: none"> (連) いつでも集える場(おしゃべり場)を設置 (地・連) 子どもの遊び場、学び場の設置 (連) 公園に遊具を設置し、楽しい居場所にする (個) 自宅前に簡単な休憩所を設置する (地) 自治会集会所や空き家を活用する (地) 魅力ある楽しい誰もが参加できる地域行事を増やす (地) 自宅の不用品交換イベントを実施 (連) 地域行事を学校、ボランティア団体、施設と連携して実施する (地) 自治会内の畑で採れた野菜の販売所設置
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃からコミュニケーションがとれている ○地域情報(行事・人財・困りごと)を共有できる ○個人情報保護を柔軟に 緩やかにつながれる体制 	<ul style="list-style-type: none"> ○転居してきた世帯の情報が分からない ○世帯の状況(認知症、障害など)が分からない ○家族の問題には踏み込みづらい ○個人情報保護の弊害(気軽に関われない) ○緊急連絡先が分からない ○専門職と民生委員と地域住民の連携不足 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 家族の情報を交換している (個) 近所の人とよく話し合う (連) 女性ネットワークでの連携・協働 (個) 見守りを続け、些細な変化でも見逃さない (個・地) SOSを察知したら相談先を紹介する (連) 包括や社協につなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 地域情報を共有する (連) 地域と学校と施設等が連携し情報を共有する (連) 地域住民(特に高齢者)の情報を共有できる仕組みづくり (連) 専門職とのネットワークづくり
理解	<ul style="list-style-type: none"> ○みんながお互い認め合う関係性がある ○障害や認知症を隠さないでいい ○世代関係なく、互いに褒めたり、叱ったりできる ○すべての住民が地縁活動の趣旨を理解できている ○地域の伝統(行事や料理など)を後世に伝えることができる ○若者が定住できるまち(若者に魅力のあるまち) 	<ul style="list-style-type: none"> ○SOSをキャッチできるだけの知識がない ○認知症や障害、困りごとを隠す傾向 ○認知症や障害に対する理解の不足 ○同和問題に関する理解の不足 ○自治会の活動が分かりにくい ○転入者に対する地域の受け入れが悪い ○これまでの歴史や慣習により、新しい考え方を取り入れることができない傾向がある 	<ul style="list-style-type: none"> (連) 認知症サポーター養成講座 (個) 傾聴・共感の姿勢を心がける (個) 認知症や障害の理解に努める 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 人権を尊重する (連) 人権研修の開催 (地) 「人の痛み」が分かる福祉教育の充実 (地) 子どもたちに昔の遊びを教える
災害	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時、声を掛け合う ○火災報知器や電気・ガスの安全装置の全世帯設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難勧告が遅い ○避難所が遠い ○要援護者名簿登録者の把握ができていない ○避難所マップが分かりにくい ○災害時の声掛け等の支援が不足 ○排水ポンプの不足 	<ul style="list-style-type: none"> (連) 災害時要援護者名簿を活用した図上訓練 (個) 心配な人には、情報を伝える (地) 災害時は自治会長を中心に情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 避難訓練の実施 (連) 分かりやすい避難マップづくり (連) 台風や大雨の際、早めの声掛けと避難誘導等の仕組みづくり (連) 火災防止の観点から、消防団と連携した自宅訪問 (連) 災害防止の観点から、河川整備強化
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの笑い声が響く、いじめがない ○(外国人が増えるので)世界に通ずる子どもを育てる ○3世代家族が多い ○学校教育の充実・地域産業の充実 ○集会所等を活用した出張病院や往診が盛ん(病院との連携) ○小地域で食事の無償提供がある ○色々な場所に行くための交通手段が充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口の減少と若者の減少 ○買い物難民・通院難民が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> (連) よりみちバスの運行 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 家族の機能が弱まる中で、親子三世同居を推進する (連) 校区で自由に使える資金を準備する (個) 花いっぱい地域をつくる(お世話を通して地域交流) (連) 小回りの利く「乗合タクシー」の配置 (地・連) 地域住民と地域商店のつながり強化(プレミアム商品券の充実)

北圏域 地域福祉ワークショップ

第1回 2019年1月16日(38名参加)・第2回 2019年3月18日(30名参加)

※(個):自分・家族が (地):隣近所～校区で (連):連携・協働で

	【 地域の理想像 】 「こんな取組があったらいいな」 「5年後・10年後こんな地域だったらいいな」	【 現状 】		【 理想実現のためにできること 】 「いいな」のために「できること」 ※
		「困ったこと」「困っていること」	「今あるもの」「今やっていること」 ※	
人	<ul style="list-style-type: none"> ○賃貸アパートの人でも顔見知りになれる関係 ○様々な問題を全て相談できる人がいる ○民生委員児童委員以外に地域のことに詳しい人がいる ○見守り隊、声掛け隊といった役割を持つ人がいる ○安否確認のために、元気な時などは玄関前にハンカチ等の合図を出す。 ○社会福祉士や生活支援コーディネーターのような専門職がいる ○買い物支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○友人がいない ○支えてくれる人がいない ○引きこもり状態である ○地域とのつながりがなく、孤立している ○地域行事に参加しない ○相談をしない ○ストレスを吐き出せない ○若い世代が自治会活動に参加しない ○地域の見守り体制が不十分である ○買い物や通院など、移動が大変である 	<ul style="list-style-type: none"> (個) あいさつ、声掛け (地) 自治会への加入促進 (個) 見守り活動 (地) 登下校時の見守り活動 (個) ゴミ出しの手伝い (個) 農道の草刈り 	<ul style="list-style-type: none"> (個) あいさつ、声掛け (個) 家族で地域行事に参加する (地) 校区全体で見守り活動を行う
場	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもも大人も交流できるよう異世代の集いがある ○バス停に人が集まる仕組み ○自治会ごとに身近に買い物ができる場所がある 		<ul style="list-style-type: none"> (地) いきいきサロンの開催 (地) 食事会の開催 (地) 各種地域行事の開催 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 気兼ねなく集まれる場所を作る(公民館の常時開放) (地) みんなで使える農園を作り交流を図る (地) 各自治会で全員参加の食事会を行う (地) PTAと地域との協働イベントを開催し交流を図る
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○情報が広く正確に多くの人に伝えられるパンフレットがある ○各家庭の個人情報(氏名・年齢・家族構成・勤務先等)を共有し、連絡が取りやすいようにする ○個人情報を分かり合える関係 	<ul style="list-style-type: none"> ○隣人の情報や状況が把握できず、支援が必要かどうか分からない ○空き家の所有者が分からない ○緊急時の連絡先が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 引っ越してきた人に自治会等について説明する (地) 広報くろめ等の配布 (地) 自治会の定期的な会議の開催 (個) 外出する時など、隣人に伝える (個) 障害者支援の団体や機関と連携している 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 情報収集を行う (地) 隣組単位で定期的な話し合いを行い、情報を共有する (地) 自治会加入のメリットを伝える (地) 担当の民生委員を知ってもらう (個) 認知症の人を見かけたら声をかけ、適切な機関につなぐ (地) 介護施設や包括支援センターとの連携を図る
理解	<ul style="list-style-type: none"> ○誰にでも気軽に声かけられ、人に頼り頼られる地域 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症の知識がない ○認知症など、地域の理解が不十分である ○親が地域行事や子ども会参加の必要性等を理解していない 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 認知症に関する研修の開催 (地) 認知症サポーター養成講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 郷土愛について教える (地) 「自分たちのまちは自分でつくる」という意識を育む
災害	<ul style="list-style-type: none"> ○防災訓練や避難シミュレーションを行い、水害等の自然災害に強いまち ○自治会ごとに防災マップを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ○要援護者に対する情報の共有、連絡方法などが定まっていない ○災害時の避難が不安である ○避難などの呼びかけができるか不安である ○災害時の情報管理が不十分である ○災害時の情報を集める方法が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 防災講座の開催 (個) 水、保存食等の準備 (個) 苜きストーブを準備しておく (地) 要援護者名簿の見直しを行う (地) 避難情報の伝達ルートを決めている 	<ul style="list-style-type: none"> (地) 避難場所の適正化を図る
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○農業の振興 ○若い世代がたくさんいる ○地域の教育力 ○不動産業者との連携 ○子育てがしやすく、子どもの声がたくさん聞こえる地域 ○企業に地域を理解してもらい、連携・協力する 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人が自治会に加入しにくい ○仕事、介護、子育ての両立が難しい ○親が子どもと向き合えておらず、子どもが家の中で孤立している ○介護の負担が大きい ○虐待等の判断が難しい ○子どもが登校班から外される ○生活の楽しみがない ○地域として何をすれば良いかわからない ○ゴミ屋敷状態である ○近くに勉強できる環境がない 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 隣人の緊急連絡先になる 	<ul style="list-style-type: none"> (個) 三世代家族で生活する